問 教育委員会管理課
☎476-1111(410)

変えていきます、業務のかたちと学校のかたち

近年、学校では、学習指導のほか、教育課題が複雑化・多様化しています。それに伴い、おのずと学校の役割は拡大せざるを得ない状況となっており、全国的に教員の長時間勤務という実態となって表れてきています。

そこで、大崎町教育委員会では、このような課題に対応するため、以下の６つの点を中心に業務改善を推進しています。

改善策１ 会議を統合して回数を減らしたり開催時間を短縮したりして、業務の簡素化と効率化を図ります。

改善策２ 夏季休業中（お盆期間）を中心に学校閉庁日を設定し、学校職員のリフレッシュ期間とします。

改善策３ 各学校にタイムカードを順次導入し、勤務時間管理の徹底を図りながら、学校職員一人一人の働き方に関する意識改革を図ります。

改善策４ メンタルヘルスチェックを全職員に行い、心理的負担の強い職員については、産業医の面接を勧めます。

改善策５ 不登校問題や特別な支援を要する子どもへの支援に対応するため、外部の専門家と連携し、『チーム学校』として組織的な対応に努めます。

改善策６ 特色ある教育活動を充実させるため、地域の皆さまや大学、専門機関などの人材を活用した取り組みを進めます。

まなびの窓 おしえの庭

『不易（ふえき）と流行』 No.48

大崎小学校 校長　大保　勉

故郷である大崎町の学校に勤務することができ、大変うれしく思っています。野方小学校、大崎第一中学校へ通い、高校を卒業するまで大崎町で過ごしました。ほとんどの家に自動車があるようになってきた頃でしたが、小学校へ通うときは皆、歩いていました。学校に近い人もいれば、５・６kmの距離の人もいたと思います。学校に近い人はいいなと、うらやましく思いながらも、皆歩いて登校し、歩いて下校していました。それが当たり前のこと、普通のことでした。

２年前、大崎小学校に赴任して、正門での朝の立哨を行いながら登校の様子を見ました。大崎小学区の正門向かい側には、役場駐車場があります。天気の良い日で40数台の車が慌ただしく出入りし、子どもたちが車から降りてきます。雨の日は50台･60台、それ以上の数えられなくなるくらいの多くの車登校の様子でした。これは、正門から見える範囲の数です。実際は、役場の建物の裏、西門や南門の辺りなどを加えると、およそ半数は車での登校という状況でした。このような状況を改善するために、おやじの会やＰＴＡ生活指導部などの協力を得て、『歩いて登下校』の標語募集や横断幕・のぼり旗の作成・設置を行いました。これらの取り組みへの理解が広がり、晴れの日は10台ほどまでに車登校は減ってきています。

松尾芭蕉が、『奥の細道』の旅で残したとされる思想を不易流行と言います。『不易』とは、時代や環境の変化によって変えてはならないものであり、『流行』とは時代や環境の変化に従って変えてはいかなければならないものという意味です。家庭・地域で子どもたちを育てていくに当たっても、この『不易流行』の考えが大事ではないでしょうか。人に会ったらあいさつをする、歩いて登下校する、ありがとうが言えるなど、時代が変わっても、当たり前のことが当たり前に、普通のことが普通にできる子どもに育ってほしいと思います。そのためには、子どもに関わる大人の行動が重要です。平成30年度からコミュニティ・スクールとして運営される町内すべての学校で、家庭・地域と協力し合いながら、当たり前のことが当たり前にでき、変化の大きいこれからの時代をたくましく生きていける子どもを育てていきましょう。